

東邦大学学術リポジトリ

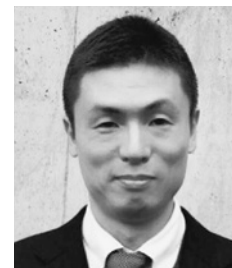
Toho University Academic Repository

タイトル	111th American Urological Association(AUA)Annual Meeting 2016
別タイトル	111th American Urological Association(AUA)Annual Meeting 2016
作成者(著者)	三井, 要造
公開者	東邦大学医学会
発行日	2016.09
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 63(3). p.250 251.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	学会参加記
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2016.r040
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD86005314

111th American Urological Association (AUA) Annual Meeting 2016

三井 要造

東邦大学医学部泌尿器科学講座 (大森)



2016年5月6～10日に米国サンディエゴで開催された、第111回米国泌尿器科学会議 (111th American Urological Association [AUA] Annual Meeting) へ参加してきました。AUAは世界最大規模の泌尿器科の学会の1つであり、世界中の泌尿器科医が一堂に会して日頃の基礎・臨床研究の成果を発表する場です。演題の採択率は20～30%程度と想定されますが、学会参加人数は毎年合計1万人を超え、日本からも多くの施設から泌尿器科医が参加しています。

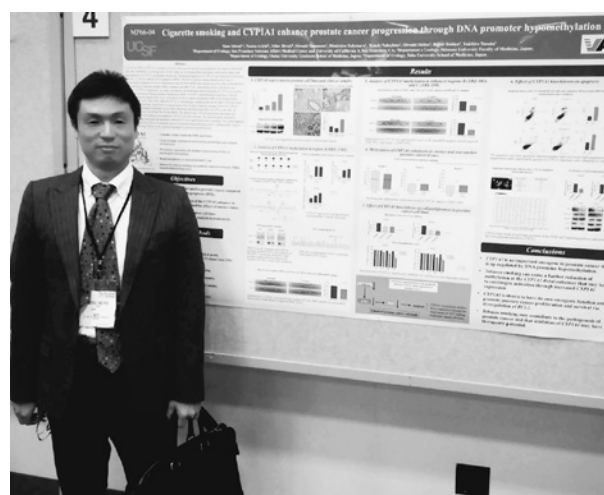
アメリカ西海岸に位置するサンディエゴは、スペイン統治時代の歴史を有するメキシコ文化の名残をとどめたアメリカでも屈指の観光地です。まるで南国のような都市には、第2次世界大戦後に活躍した超巨大空母のミッドウェイ博物館や、サンディエゴ動物園、広大な敷地面積のバルボア

パークなどがあります。なかでも、地形を利用し作られた水族館であるシーワールドサンディエゴは世界的に有名であり、学会のレセプションパーティーはここを貸し切って行われました。レセプションパーティーはAUAにおけるメインイベントの1つでもあり、毎年趣向を凝らした演出で参加者を楽しませてくれます。私は翌日が発表日であったため、ややナーバスになっていましたが、美味しい料理と飲み物を堪能することで、適度にリラックスすることができました。

学会会場はサンディエゴのダウンタウンにある巨大なサンディエゴコンベンションセンターでした。会場の窓からはサンディエゴ湾が一望でき、すぐ近くにはMajor League Baseball (MLB) サンディエゴ・パドレスのホームである



レセプション会場で。左：同僚の中島陽太先生、右：著者。



発表直前にポスターの前で。著者。

PETCO Park 球場があります。

今回私は、moderated poster session で3演題を発表する機会が与えられました。タイトルはそれぞれ“Overexpression of VCAN is associated with metastasis and unfavorable prognosis in patients with renal cell carcinoma”, “Cytochrome P450 1B1 promotes renal cell carcinoma tumorigenesis via altered expression of CDC20 and DAPK1 genes”, “Cigarette smoking and CYP1A1 enhance prostate cancer progression through DNA promoter hypomethylation”であり、前立腺癌、腎細胞癌の発生・進展のメカニズムを分子生物学的側面より検討したものです。各演題での持ち時間は3分と非常に短く、英語で要点がうまく伝えられるか心配でしたが、座長をはじめ多くの人に興味を持ってもらい、活発な意見交換を行うこ

とができました。特に発表前に座長から「前立腺癌と喫煙との関連を明らかにしたクリアなデータだ!」と声をかけられたときには、非常に嬉しく感じました。また、自分の研究分野以外にも多くの興味深い研究報告があり、泌尿器領域におけるさまざまな新しい知見を得ることができました。今回の経験をもとに、今後の臨床・研究をさらに発展させていきたいと思います。

最後になりましたが、研究に関してご指導、ご支援いただいたカリフォルニア大学サンフランシスコ校のProf. Yuichiro Tanaka, Prof. Rajvir Dahiya, そして海外出張の機会を与えて頂いた中島耕一教授に感謝申し上げます。

DOI : 10.14994/tohoigaku.2016.r040